

## 町民自治推進委員会 活動報告

この委員会は、町の憲法と言われる「まちづくり基本条例」の理念に基づき「町民自ら考え行動する町民自治の実現」をテーマに、町長が委員に対して「町民の皆さんが自ら考えさまざまな活動ができているか」「それを町が支援できているか」などについて、調査研究していただくために設置しています。

今回は、今年度第1回目の委員会として、4月30日に追分地区にあるコミュニティスペース「ENTRANCE（エントランス）」で開催した内容をご紹介します。

### ■ワークショップの内容と結果

町民の皆さんがまちづくりへより参画しやすくするためには「町民同士が交流できる拠点」と「たくさんの情報発信」が重要という仮説をもとに、委員の皆さんの関心が強かった「ENTRANCE」と「あびらチャンネル」について、活動する方々から直接お話を聞き、意見交換を行いました。



当日の「ENTRANCE」の様子

### 追分地区コミュニティスペース「ENTRANCE」

- ・「集まる、話し合う、創り出す」をテーマに、この場所を未来への入り口と捉え、運営されている。
- ・「寄り添い、ともに進む」ことで、まちづくり（町の未来）への支援をしていきたいと考えている。
- ・午前中はご年配の方たちが会議をし、放課後は小学生たちが訪れ、高校生が宿題や読書をする姿も見られる。シェアオフィスとしても2社入居中であり、多世代の利用があることが分かる。

▶以上のことから「いつ来ても良い、いろいろ受け入れてくれる」まちづくりの重要拠点として機能していることを確認した。委員からは「アピールの重要性」への指摘と「自ら積極的に利用している」という意思表示があった。

### 「あびらチャンネル」

- ・防災情報の発信を主目的に導入され、平成30年北海道胆振東部地震では実際に活用された。
- ・平時から身近に感じてもらうため、番組制作を民間業者へ委託しており、再放送番組は不要との町民の声を考慮していきたい一方で、これまでの町の歩みを知ることができるという、特に移住者にとっての大きな価値があるとの見方もある。
- ・役場のみならず、地域の各種団体と協力し、1人でも多くの町民に「まちづくりに貢献したい」と思ってもらえるような取り組みを続けたいという説明があり、住民参画がとても意識されている。

▶以上のことから、委員から次の意見が出された。

- ・「身近な人が出演している」と口コミで広がっていることから、今後もこうした広がりが重要であり「みんなで意識して見る」ことが大切ではないか。
- ・番組表のPRの方法を検討してみてもどうか（LINEを活用するなど）。
- ・番組について「感想を言える仕組み」があれば良いと感じた。
- ・なり手不足に課題がある活動や、ボランティア活動を取り上げることで、「イメージの向上」「生きがい支援」ができるのではないか。

今後も引き続き、町民の皆さんの「まちづくりへの参画状況など」について調査を進めます。

問合せ 政策推進課政策推進グループ ☎② 2751